

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1347号 平成30年3月15日

3 月 号

北朝鮮が軽視している「重大事件」	本紙編集部.....	1
北朝鮮が画策する「日本世論分断作戦」とは		1
CIA の対中共最終兵器隠し球＝全能神教会		2
読者投稿 国会で憲法改正論議が始まる前に押さえておきたいこと		3
文学博士が語る「国語」の意味		4
知っておきたい「認知症」のこと		5
本部、地方本部活動報告		6



2月11日 檀原神宮正式参拝

本 社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 2-5-24-103
電話・FAX (03)5313-0215
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ [http:// 大日本生産党.com/](http://大日本生産党.com/)

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
主幹・編集長／谷 田 透

北朝鮮が軽視している「重大事件」

本紙編集部

アメリカ世論が激怒する爆弾の導火線へ自ら点火してしまったことに、どうやら北朝鮮は気づいていないようだ。仮に気づいていたとしても、かなり軽視していることは間違いない。

その爆弾というのは、二〇一六年にツアーで北朝鮮に渡ったアメリカ人大学生オットー・ワームビア君（当時二二）が、結果的に北朝鮮当局によって殺された事件である。

彼は平壤のホテルで、雨に濡れた自分の革靴を直接カーペットに置くのは気が引けると思い、購入した労働新聞に包んで置いていた。ところが翌朝、部屋にいきなり乗り込んだきた公安取締官によって「不敬罪」で現行犯逮捕されてしまう。革靴を包んでいた労働新聞には「最高指導者」の顔写真が掲載されていたのである。

彼は取り調べの拷問により「不敬罪」を認めさせられ、裁判によって十五年の労働教化刑を言い渡された。この刑は強制労働によって思想を北朝鮮主体思想に変更するものだ。その過程で彼は虐待を受けていたようで意識不明の植物人間になり、アメリカ国務省は人道的配慮を北朝鮮に申し入れて彼をアメリカに帰国させた。北朝鮮としては、不敬罪の罪人を刑罰の執行途中に釈放する特別配慮をしたと自慢さえしていたのである。

アメリカに帰国した彼が精密検査を受けたところ、首や顔面を強く圧迫され続けていたことによる脳血流不全によって脳死状態に



陥っていた。それが原因となり、彼は意識を取り戻すことなく死去した。

ホテルの部屋のカーペットを汚してはならないと濡れた革靴を新聞紙に包んだことが問題ではなく、その新聞に「最高指導者」の写真が掲載されていたから問題だとする北朝鮮の当局に対して、「それなら古新聞はどうしていいのか？」というアメリカ世論の質問には一切の回答は無い。

アメリカ世論、つまり国民感情はオットー・ワームビア君の事件を忘れてはいないし、マスコミも決して忘れていない。その後の「トランプ劇場」に振り回されていただけで、彼のことを忘れた訳でも北朝鮮を許した訳でもない。いずれ爆発してアメリカ国民が激怒するのは確実であり、その導火線にはすでに火が点いているのである。

北朝鮮当局も「トランプ劇場」に振り回されて、彼の事件を忘れたかのように軽視しているが、それは余りにもアメリカ国民感情を知らなずで国家レベルの政治的問題に過ぎず、国民感情を激発させるのは将にオットー・ワームビア君のようなケースなのである。この違いが理解できていない日本のメディアも多いが、理不尽な死に対するアメリカ国民性を分析すれば、必ず北朝鮮に鉄槌を下す選択をするであらうことが解るはずだ。

北朝鮮が画策する「日本世論分断作戦」とは

日本では安倍政権がアメリカ政府と歩調を合わせ、北朝鮮に対しては「核・ミサイル・拉致」をセットにして強硬な交渉をするようになった。『「ミリも譲ることはない」という菅官房長官のコメントにもあるように、北朝鮮と個別課題を解決に向けて話し合うなどということはあり得ない。』

北朝鮮は、半島の問題は我々（南北の政府）

だけで決定するという姿勢を韓国の文在寅政権と申し合わせているが、それは日本政府にもアメリカ政府にも「口を出すな」と言っているに等しい。韓国政府高官たちは、日本にもアメリカにも気を遣いつつ文大統領に意見できない腰抜け揃いなので、優柔不断の国際対応しか出来ていない。

北朝鮮としては、韓国世論は情緒的で瞬間

湯沸かし器的なものが、日本世論は韓国よりも洗練された慎重な判断で動くと見ており、在日朝鮮人組織を利用して日本人政治家などの影響力を持つ者を「オルタナティブ」の世論操作手段に使うと計画した。オルタナティブとは、二者択一の判断を大衆に迫るという単純な方法であり、第三の道などを認めずに提示した二者択一だけに絞って判断を迫るものを言う。これは世論操作の基本的な手段で、情報機関がマスコミを利用して世論操作する場合にやらせている。

さて、北朝鮮の直属工作機関である朝鮮総連では、「反米」「反安倍」「反YYP体制」の日本人に積極的に接触することで、「北朝鮮に行ってもよい」という個人や団体を選別している。可能な限り影響力の強い右派や保守派の人物を選び、北朝鮮に対して自説を主張することも許可するので「拉致問題を解決するために訪朝して下さい」とスカウトしている。これに乗る者は、朝鮮総連が手配して訪朝させるが、「招待状」が無ければ平壤に入れないので日本人旅行者たちは勝手な行動は最初から制限されている。

これらの小市民とは別に、朝鮮総連から一本釣りされた(スポンサー契約?)日本人政治家が「ポスト安倍」のキーパーソンに祭り上

げられることで大義名分が出来る喜び、まゝと朝鮮総連の用意したバスに乗っている。「バスに乗り遅れるな」と叫んでいる日本の一部世論は、北朝鮮の建国がそもそも日本人特務機関の協力で成されたという歴史的事実が「今でも同じ価値観で語られている」と誤解して、北朝鮮に対して不思議なシンパシーを感じている節がある。つまり、一部の対立する政治家たちを「日米韓の集団安保トライアングル」を選ぶ者と「日朝直接対話によって米韓を黙らせる」ことを選ぶ者とに分断し、それをマスコミを使ったオルタナティブで世論操作するカラクリである。

さて、四月の金日成記念日を狙い目とした訪朝政治家は誰なのか? 朝鮮総連の許宗萬議長と密会を繰り返している政治家は誰なのか? 「反米・反安倍・反YYP体制」でオルタナティブするお人好し右翼は誰なのか? よく見ておいて欲しい。

今後とも北朝鮮の画策する「半島統一」は進んでゆくだろうと思うが、結婚と同じで「周囲の祝福」を受けるかどうかは爾後の結婚生活に重大な影響を与えるだろう。「愛こそすべて」と周囲の意見を無視して結婚した夫婦が幸せに添い遂げられる確率がどのくらいか? それは分からない。

CIAの対中共最終兵器隠し球Ⅱ全能神教会

中国では宗教は自由化されていない。国家が許しているのは一部の仏教や道教に限られており、キリスト教やイスラム教は絶対に許されない。

習近平政権は現在、中国各地にある秘密教会や家庭教会と呼ばれているキリスト教の教会を閉鎖して破壊する措置を進めている。信者たちは逮捕されるが、実はこのキリスト教信者の大半が「全能神」の信者なのである。

逮捕された全能神の信者は四万人を越えており、彼らは逮捕されても「我々の神様は共産党思想を許してはならないと教えている」と堂々と叫んでいる。だから逮捕された信者は、すぐに有罪判決を受けて刑務所に入れられる。

全能神の教祖はアメリカに亡命しており、その安全はCIAが保証している。中国の秘密教会などの拠点は「末端細胞」と呼ばれているもので、基幹拠点はアメリカとカナダに置いてい

る。もうすぐ日本にも基幹拠点を設立する運びだが、これには法輪功に失望した支援者たちも乗り換えると言われている。

法輪功は江沢民を敵として批判していたのに、習近平は味方だと言って擁護している。つまり、彼ら法輪功は「反共」なのではなく、自分たちを弾圧すれば敵として批判するだけなのである。少し(習近平のように)優しくされると味方だと、破廉恥にも共産党擁護に変節する組織なのである。だからCIAにも見放されるのだろう。

全能神の世界的な信者数は不明だが、中国人が大規模にキリスト教信者になることで世界中の力



トリックやプロテストが支援するのは間違いないだろう。

中国共産党としては、過去の中国では「白蓮教団」が観音様を信仰する信者を増やし続けて体制を傾けたことがトラウマとして残っており、法輪功が脅威でなくなった今では、「怖いのは全能神だけ」になっている。全能神を人知れず壊滅させることが、習近平が公安部に出している密命だと伝えられている。

そこにCIAが目をつけないはずがない。全力で国際的支援を拡大させてゆこうと動き始めている。日本国内には在日韓国人のキリスト教信者も多く、韓国そのものが国教をキリスト教に定めている関係から、中国人と韓国人のキリ

スト教信者の新しい連帯も進められるとのこと。そうならば「宗教は麻薬だ、絶対に認めないし許さない」と宣言している北朝鮮も射程に入れられる。

今では香港が中共の取締強化によって自由が制限され、報道や出版に関係する中国人はいつ逮捕されるか分からなくなり、どんどん台湾に逃げ出している。これも全能神の拡大戦術に追い風となっている。

習近平と金正恩は、信仰の自由や宗教の自由を今さら認める訳には行かないだろう。そうならば「自由の敵」と位置付ける大義名分が整うので、CIAは余裕で作戦が進められる。面白くなりそうだ。

読者投稿

国会で憲法改正論議が始まる前に押さえておきたいこと

現行の日本国憲法がいくら押し付け憲法だと言っても、これほど改正されていない憲法は世界的にも珍しい。国家基本法としての憲法を時代に合わせて改正しなくても良いほど、日本は完成された国家なのだろうか。

さて、終戦直後に乗り込んだ占領軍総司令官マッカーサーは、この「押し付け憲法」をどのように考えていたのかを押さえておきたい。そうしないと、国会が始まる憲法改正論議に対してマスコミ評論に引きずられてしまう危険性がある。

大日本帝国憲法を否定させる憲法を作る時に、その過程における世界的政治状況が大きな影響を与えたことに注目する必要がある。第一次世界大戦の終了と同時にヨーロッパは没落し、代わってアメリカが台頭してきた。基本的な当時の思想は「デモクラシー」であった。そのデモクラシーを敗戦国に押し付けて、矯正的な変革を推進しようとしたのである。このデモクラシー思想に反するのが帝国主義であり、全体主義や社会主義も同様に敵対思想と考えられていた。第一次大戦の勝ち組であるアメリカが提唱するデモクラシーこそ、世界のあるべき姿なのだと思います。

昭和十七年に、アメリカは既に日本に勝てるとして「戦後政策」の策定に着手していたという。この国務省を中心とした占領政策に軍部も全面的に協力し、日本は二度とアメリカの脅威にならないようにという基本方針を容れ、民主化と非軍事化を憲法によって固定化しようとし

たのである。

国務省は当初、天皇を排除する考え方だったが、占領政策の円滑で早急な推進のためには「天皇の権威」をフル活用する方が合理的だという考え方になった。

それが占領軍総司令官として日本に到着したマッカーサーが手書きで三ヶ条を記した「マッカーサーノート」により、①天皇は元首、②戦争の完全放棄、③封建制の廃止（デモクラシー採用）の三項目が既定事項となった。

一週間で原案を作り、日本側が用意していた原案を棄却したのは、マッカーサーが「占領成果」を急いでいたからである。



その理由は、大統領選挙に出馬するためだ。アメリカ大統領選挙には、軍人は軍籍を離れてから一年以上経過していなければならないという規定が設けられていたため、彼は占領政策が順調に進むよう必死だったのである。

天皇の権威を目一杯使うためには、天皇をGHQの管理下に置いておく必要がある、そのためには枢密院という天皇の諮問機関もGHQの管理下に置いておかねばならなかった。こうしてコントロールすれば、天皇の権威を簡単に利用できるということである。

「憲法案を承認しなければ、天皇を極東裁判に出廷させる」という恫喝は、GHQにコントロールされていた枢密院にとっても、復帰して

いた政治家にとっても渡りに船の言い訳として効果的だった。天皇の権威の逆利用も、マッカーサーの方針に沿ったものであった。

帝国憲法下で女性の政治参加が認められていなかったことも、マッカーサーの推進するデモクラシーには追い風となった。女性の政治参加こそ、デモクラシーの象徴的事例として考えられたからだ。

GHQの押し付けは「ハーグ条約」（一九〇七年）に違反しているという批判もあったが、これは第一次大戦までの戦争では「戦勝国は敗戦国の国民を奴隷として利用できる」というヨーロッパの慣習を廃止するためのものであり、日本の戦後処理には当てはまらないとの見解で進められた。

東京帝国大学法学部は、GHQ憲法で天皇の地位を変更することは認めないとしていたものが、宮沢俊義教授の「ポツダム宣言受諾は一種の革命的なものであり、それによって憲法が根本的に変更されても仕方がない」という「八月革命説」の発表で一八〇度態度を変えて、占領軍は革命軍だという変わり身の早さを示した。このポツダム宣言にしても、当初は「日本国

政府の無条件降伏」としていたものを、これでは受け入れない可能性があるからと「日本軍の無条件降伏」に変更されたものである。ソ連の南進を防ぐという理由と、日本人に受け入れやすいポツダム宣言にするようにという元駐日大使グルーの進言によって、マッカーサーはアメリカ大統領選挙を最終目標にして走り出したのである。

憲法の前文にはリンカーン演説の内容を取り入れ、「マッカーサーはリンカーン思想を占領国制定の憲法として日本をデモクラシー国家に改造した」という実績をアメリカ国民にアピールしたかったのである。

この時点でマッカーサーは、「アメリカは日本の宗主国であり、日本人の生命財産を守る義務はアメリカにある」と考えていた。

今の日本は、自民党から共産党まで「独立国・自由主義国」だと認識している。アメリカを宗主国などとは思っていない。ならば、日本人の生命財産を守る義務は誰にあるのかは明白だ。マッカーサーという人物の「お家の事情」を知ることから、これからの日本の在り方が見えてくるというのも皮肉なものである。

文学博士が語る「国語」の意味

大阪大学名誉教授で文学博士の加地伸行氏の講演会が二月十七日にあった。社団法人パーセー実践哲学研究会の勉強会である。そこで加地博士が「国語」について面白い話を聞かせてくださった。

まず国語とは、国家の歴史伝統文化を表して展開する言語のことであり、その意味や背景を知ることが重要だという。そして、国語は民族的特徴が表れているものと考えられている。



その民族的なことを考えると、狩猟民族とは能力主義で「脳力のある者が多くの獲物を得る」ことで、これが個人主義（成果主義）に結びついている。

逆に日本などは農耕民族であり、獲物を追って移動するのではなく耕作して定住し、共同体主義で社会を構築してきた。また穀物は保存性も良く「富の象徴」としての意味合いもある。

狩猟民族は肉食で、そのために腸が短い（胴が短く足が長い）。獲物を追うために足が速く頭は小さい。農耕民族は穀物食で腸が長く、定点労働のために走る必要もなく、屈んで仕事をする体型になっている。オリンピックで民族的体型に合わせて得意スポーツが違うことに留意すべきだろう。

幕末になって欧米の先進的技術に度肝を抜かれた日本では、物質文明で個人主義の、欧米の真似をすることで発展できると考えた。先進的技術は富を約束し、現状の日本のままでは貧しいと考えた。

貧しさは時代によって考え方は違うが、「裕福になりたい」という欲望が先進的文化を取り入れたので、明治以降の日本では、無償の愛情によって結ばれた共同体は時代遅れの貧しい象徴と見られるようになった。特に戦後は、家族や村落共同体を時代遅れの貧しさと煩わしさの象徴と蔑むようになった。

裏返して考えれば、幕末までの「日本らしさ」を捨て去ったところの延長線上に今の日本があ

り、その時から「国語の重要性」も捨て去ったのではなからうか。

支那大陸で作られた漢字を日本では古代から採用していたが、その漢字は三千年前に四千字だったものが二千年前には一万字に増え（創作され）、四百年前には五万字にまで増えた。必要に応じて、また時代の要請や生活様式の変化に合わせて漢字は増え続けてきた。つまり、創造力と想像力が漢字を増やし続けてきたのである。それに合わせて語彙（ボキャブラリー）も豊富になり、文化的な進歩発展は可能になってきたのである。

知っておきたい「認知症」のこと

認知症研究の権威である大阪大学大学院の佐藤真一教授の勉強会（兵庫フォーラム）に参加させて頂き、いろいろ知らなかった事を勉強させて頂いた。

まず認知症という病気と、その手前の認知機能の低下に関しての問題である。

我が国厚生労働省では二〇一二年に「六十五歳以上の一五％（約五五〇万人）が認知症の有病者である。先進諸国の平均は一〇％以下である。二〇二五年の認知症有病者の予測は約七〇〇万人である」という信じられない発表をしているようだ。また、有病者ではないが軽



度の認知障害者（MCI／認知症予備軍）も六十五歳以上の一三％（約四〇〇万人）おり、これは世界的に見て危機的な水準にあるようだ。二〇一三年にアメリカは認知症の診断基準を変更し、MCIを認知症有病者としてカウントすることとなった。つまり、この基準に照らせば、日本には六十五歳以上の二八％が認知症ということになる。

日本の百歳以上の高齢者は約六万人いるが、自分のことが自分で出来るのは全体の二〇％以下と言われている。介護を必要とする割合を減らすことが重要である。

現代人は二十代後半になると認知機能の低下が見え始める傾向にあり、その認知症も記憶障害の目立つアルツハイマー型だけでなく、鬱や

生命の連続性の中に祖先祭祀があり、その象徴として天皇が存在する。つまり文化そのものの、国語そのものが天皇の存在なのである。

もう一度、「日本らしさ」「国語の重要性」を考えるべきではないだろうか。日本人の創造力と想像力は偉大な文化を發展させてきたのであり、そもその民族的特徴を冷静に考えるべきだろう。幕末維新の頃に捨て去ったものを、もう一度「拾い直して」みたいものである。それが「天皇」を考えることにもつながる。

加地博士の示唆に富むお話から、若干かいつまんで紹介させて頂いた。

倦怠状態の目立つレビー小体型や暴力的になりたり万引きを繰り返したりする前頭側頭型も見られるようになってくる。

認知症の七〇％を近くを占めるアルツハイマー型は脳細胞脱落と言われ、脳神経原線維変化の原因が脳内のアミロイドベータ蓄積だと仮説が立てられている。現在の認知症治療の主流は、このアミロイドベータを溶解する薬の投与になっている。我が国では青年層にまで見え始めた認知機能の低下は、視野狭窄や言葉を上手く伝えられないことから始まり、一つのことに固執する傾向が出てくることで少し問題だと感じるようになる。そしてさらに記憶障害が出てくると、認知出来ない（記憶と照合することが出来ない）という問題が生じてくる。ただ「認知の異常」と「感覚の異常」は別物なので、そこは注意が必要だ。

前述のレビー小体型では、有病者に写真を見せて「何に見えるか」と聞いても全く別物に見えてくるが多くなる。リングを見せて「何に見えるか」と尋ねて名前を思い出せないというのがアルツハイマー型である。脳血管性の場合には、簡単な記号を見ながら書かせても、全く同じものが書けなくなる。

注意が必要なのは、肝臓ガンなどで体内毒素が浄化できなくなった場合に、その体内毒素が脳に回って認知症と間違えられることがある。

相手の喜怒哀楽などの表情認知が可能か、世間的常識的な判断が可能か、ヒントを出せば記憶が出てくるかを見て、認知障害の程度を判断するのが一般的なチェックとなるが、一般的に認知症でも「相手の笑顔は認知できる」「相手

の感情が共有できる」ということは言われている。「相互意志疎通」を最重要と考えて認知症に対応する以外に、我々に来ることはなさそうだ。

日本には認知症及びMCI(認知予備軍)が先進諸国に比べて異常に多い理由は何かと考えると、民族的な性質と社会的な問題が浮かび上がる。

日本人は几帳面で真面目、清潔好きで世間体を気にする。表面的な威厳や高潔な態度を好ましいものとし、道徳性を重んじる。他人の評価を気にしながら、自分や他人を評価する。昔から、

本部、地方本部活動報告

■本部、関東・東北本部

◇一月二十一日(日)

・午後〇時五〇分より、京都市南区「京都テルサ」において本年第一回政治会議を開催した(写真下)。出席者は鴨田、阿部両最高顧問、丹野党首、阿部、杉山両副党首、堤党首代行、谷田書記長、花田書記長代行、佐伯副書記長の九名。

丹野党首による挨拶に始まり、進行は阿部副党首。議題は主に昨年の活動報告と今年の活動計画。続いて尖閣諸島・竹島問題に対する今後の党運動を討議した。

さらに、三年後の西暦二〇二一年は黒龍会結成一二〇年であり、同時に我が党結党九〇周年に当たするため、全国大会、記念式典・懇親会を開催する旨決定した。

会議は五時に終了、夕食を共にし六時に終了した。

◇一月二十七日(土)

・午後六時より東京都江東区東陽にて、山口申先生勉強会。杉山副党首が出席。

■関西本部

◇二月十一日(日・祝)

・午後一時十分より、奈良橿原神宮にて「紀元節奉祝・橿原神宮参拝」を行なう。党員・有志やその家族ら約二十名が参加(写真表紙参照)。阿部関西本部長による代表参拝・玉串奉奠、谷田兵庫支部長による祈願文奉読。同神宮参集殿にて直会を行い、午後二時半頃終了、解散した。

【祈願文】

建國紀元の佳節に当たり、大日本生産黨関西西宮下の黨員有志一同、橿原神宮の御神前に、謹みて、皇國日本の彌榮を祈願し奉る。

今上陛下のご譲位及び改元が來春に決まり、二百年ぶり、憲政史上初の慶事になるとの由、謹みてご皇室の彌榮を祈念し奉る。

扱て昨年十月の衆議院総選挙に於いて自民黨が大勝、第四次安倍政権が誕生したが、それには野

他人と世間を恐れていたからこそ、人様、世間様という言い回しがあるのだろう。これらが脳に過剰な負担をかけ続けているのかもしれない。

食品から蛋白質の一種であるアミノイドベータが取り込まれることをアルツハイマーの原因と考えるのが仮説の主流だが、それだけなら日本人に認知症が多い理由にはならないだろう。

脳は小さな宇宙であり、科学分析で解明出来るような簡単なものではない。

佐藤真一教授のお話を聞いて、我々がマスクミなどを通じて一方的に教えられる認知症に関する認識は改められた。

黨の無様な離合集散が大きく寄与したものであった。換言すれば、現下日本で政権交代が起る事は、即ち國家轉覆に繋がりがかねぬといふ國民の危機感が正常に働き、我が國の急場を凌いだに過ぎぬと言へやう。



政治会議

將に然り、安全保障問題の優等生安倍政権を以てしても、中國を相手にした尖閣諸島の實効支配さへ危うく、たかが韓國一國相手の竹島侵略にも手を拱いてゐる。自衛隊は未だ米軍の後方支援以上の事は爲し得ず、悲しい哉、現時点で我が國は米國に縋る以外の策は無いのである。

戦後七十年間情眼を貪つた結果、中韓兩國による慰安婦問題等の歴史戦は、今や國聯から北米にまで舞台を擴大され、在外日本人とその家族は恥辱に泣いてゐる。祖國日本はただ一方的に冤罪を押し付けられをり、先の大戦に散つた英靈を始め祖先に對し慚愧に堪へない。

憲法もまた片言隻句の改正論議に終始しをり、核家族化と家庭崩壊、教育の頹廢など、終戦時聯合軍の意圖した日本弱體化は、今や日本人自らの手で擴大される慘狀を呈してゐる。

まさに内憂外患、國民の更なる意識變革にむけ、益々在野の國民運動の盛り上がりが必須である。

此處に我等在野有志は決意を新たにし、夷敵を討ち拂つて維新日本の建設のために努力、邁進することを御神前に誓ひ、以て皇國の彌榮を祈願し奉る。

皇紀二千六百七十八年 平成三十年二月十一日

大日本生産黨関西本部 及び有志一同

◇三月二日(金)

・午後六時半より尼崎にて「むすびの集い」勉強会。党員、有志計八名参加。資料は「平昌五輪から読み解く朝鮮半島の今後」ほか。